

立山あおぐ特等席。富山市

〔富山市の位置等〕

富山市は、富山県のほぼ中央から南東部分までを占め、北には豊富な魚介類を育む富山湾、東には雄大な立山連峰、西には丘陵・山村地帯が連なり、南は豊かな田園風景や森林が広がっています。

市内には、神通川や常願寺川など大小の河川が流れ、古くから川で結ばれた文化圏を形成しています。海の幸に恵まれた富山湾から3,000メートル級の山々までが織りなす自然の姿は、世界第一級の景観をなしています。



〔地勢と人口〕

面積：1,241.70km²

人口：407,058人
(令和5年9月30日現在)



世帯数：185,060世帯
(令和5年9月30日現在)



〔富山市の沿革〕

富山市の平野部は、豊かな農耕地帯として、また北陸道などの交通の要衝として古くから栄え、たびたび戦乱の地になっています。安土桃山時代には、佐々成政が富山城に入城し、治水事業を手がけ、農業がますます盛んになりました。江戸時代になると富山藩十萬石が置かれ、葉業や和紙などの産業が奨励され、飛騨街道や北前船航路などの交通・物流網の整備や越中売薬の独特の商法も相まって「くすりのとやま」として全国に知られるようになりました。明治以降、県庁所在地として、また北陸初の水力発電所が建設されるなど、豊かな電力を基盤とした工業のまちとして順調な発展を遂げましたが、昭和20年8月の空襲により市街地は壊滅的な被害を受けました。

戦後、都市基盤の整備や産業経済の進展により、現在では日本海側有数の商工業都市として発展してきました。

また、平成8年には旧富山市が中核市に移行し、平成17年4月には、富山市、大沢野町、大山町、八尾町、婦中町、山田村、細入村の7市町村が合併し、新しい「富山市」が誕生しました。

〔市の木〕
ケヤキ



〔市の花木〕
ツバキ



〔市の草花〕
ヒマワリ



富山市くらしの便利帳は、市役所の事業や制度などに関して、市民の皆さんの生活に役立つと思われる項目を選んで、令和5年10月1日現在の情報を基に作成しています。

なお、制度改正などにより内容が変更になる場合もありますので、あらかじめご了承ください。内容の変更などについては、「広報とやま」や「市ホームページ」などでお知らせします。

それぞれの内容は概要を掲載していますので、わからない点や詳しくお知りになりたいときは、各事業担当課に直接お問い合わせください。

くらしの便利帳についてのお問い合わせは、市民協働相談課（**☎443-2045**）をお願いいたします。

市庁舎案内図



*1階西館：多目的コーナー、ラウンジ、コンビニ、ベビーコーナーがあります。